

若手職員座談会

CROSS TALK

主計局・理財局・国際局で働く入省2・3・4年目職員に、財務省を志望した理由、入省前後のギャップについて聞いてみました。



Q1 自己紹介をお願いします。

田栗:主計局文部科学第一係の田栗です。入省4年目で、現在は主計局で文部科学省の予算編成に携わっています。各省庁から予算要求を受ける9月から12月にかけては非常に忙しいのですが、1月に政府予算案の国会提出を無事終えて、それ以降は落ち着いていきます。入省する前は別の仕事をしており、柔道整復師として整骨院で働いていました。



山下:理財局総務課の山下です。田栗くんとは同期で入省4年目です。現在の業務は、理財局長をはじめとする局の幹部のスケジュール管理や、理財局全体の業務が円滑に進むように、総合的な目線で局内の調整業務を行っております。学生時代は、地方自治を専攻していました。

阿部:主計局司法・警察係の阿部です。入省3年目で、現在の業務は裁判所と財務省の外局である出入国在留管理庁及び公安調査庁の予算を査定しています。入省1年目は、主計局の司計課というところで、決算業務(国の一般会計年度における収入と支出の実績を明らかにすること)に携わっていたので、2年間の主計局勤務を通して、予算と決算どちらの業務も経験でき、大変

やりがいのある仕事に携わりました。学生時代は、国際系の学部でインドネシア語などの様々な言語について勉強していました。

田邊:国際局開発政策課参事官室地域第一係の田邊です。現在入省2年目で、業務内容は政府開発援助(ODA)の中でも円借款(開発途上国にお金を貸し付ける)業務の個別案件を担当しています。学生時代は、経済学部で経済を勉強していました。

Q2 なぜ財務省を志望しましたか？

田栗:率直にかっこいいと思ったことがきっかけです。(笑)

加えて、ニュースで流れた社会保障関係費の増額に興味を持ち、就職先として厚生労働省と財務省を比較した上で、予算編成等で幅広い業務に携われる財務省を選択しました。最終的な決め手は、様々な省庁の説明会に参加した中で、財務省の説明会の雰囲気が一番良かったことです。山下さんは、もともと財務省志望じゃなかったんだよね？



山下:そうそう。私は正直なところ、最初は全く財務省に興味はありませんでしたが、他省庁と密接に関わりながら働けることが非常に面白そうだな、自省庁の政策だけでなく他省庁の政策も深く知りながら仕事ができるのは魅力的だな、と思って財務省に興味を持ち、入省を志望しました。阿部さんと田邊さんはご家族が公務員なんだっけ？やっぱり就職先選に影響があったの？

阿部:僕の両親は国税庁で勤務しているのですが、生き生きと働く両親の姿を見て漠然と公務員を目指すようになりました。就職活動の中で国税庁は財務省の外局と知り、財務省に興味を持ち始めました。そして、財務省の説明会に参加



した際に、採用担当の方の人柄の良さに魅力を感じて、「こういう方が働いているところって、周りの方も似たような雰囲気を持っていて、きっと自分と合う方たちが多いんだろうな」と直感的に思ったことが、最終的に財務省を志望した決め手です。田邊さんも最初から公務員志望一本だったの？

田邊:私は父親が金融庁にいて、将来は公務員かな、となんとなく考えていましたが、いよいよ進路決定する際に、本当に公務員でいいのかなと悩み、民間も視野に入れながら就職活動をしていました。その中で、民間企業は最終的には会社の利益のために働くことを念頭に置きますが、国家公務員は国全体の利益を考えられるところがいいなと思い、国家公務員を志望する決意を固めました。その中でも財務省を選んだ理由は、田栗さんや阿部さんと同じになってしまうのですが、説明会に参加した際に、職員の方がすごく優しく、想像以上に親身になって話してください、雰囲気の良さを感じたからです。加えて、特別やりたい分野や取り組みたい業務も決めきれなかったのも、お金を通して幅広い業務に携われる財務省を志望しました。

Q3 財務省入省前と入省後でどんなギャップがありましたか？

田栗:入省前の財務省のイメージは何から何まで

全部悪いイメージでしたが、実際に入ってみると、「締めるところは締めて、緩めるところは緩める」といったような、メリハリをつけて働いている人が多い印象です。閑散期であれば、残業している人に対して「絶対に今日中にしなきゃいけない業務じゃなければ、早く帰ろうぜ！みんな！」といった声がかかることもあります。同じ主計局の阿部くんはどう？

阿部:残業については田栗さんのおっしゃる通りで、繁閑に応じたメリハリが効いていると思います。また、ドラマのワンシーンで、真っ暗な中、自分のデスクだけ明かりがついていて独りですが、そんな状況はなかなかないと思います。主計局は、相手省や担当事業は違えど、どの予算係も1月の政府予算案の国会提出に向けて同じスケジュールで動いているので、「互いに肩を組んでチーム全員でやっぺいこう！」という意識があり、こんなにチームワークが強い組織なんだと驚きました。

田邊:私も田栗さんと同じで、財務省はやはりすごくお堅いイメージがあったんですが、実際はそんなことなかったですね。課内は皆さん温かい人ばかりで、心穏やかに仕事ができる雰囲気です。また、とても忙しくて自分のプライベートな時間は取れず、趣味も制限されるのではと覚悟して入省しましたが、最低月1日以上は休暇を取りましようといった課内での呼びかけがありますので、業務状況にもよりますが、自分のペースで休暇を取得できることが意外でした。

山下:財務省志望の決め手について、皆さんは職員の人柄や雰囲気を挙げていましたよね。私はそこにギャップを感じることもありました。というのは、公務員はクールな人、落ち着いた人が多いイメージでしたが、実際は皆さん業務に対して熱意や思い入れを持って取り組んでいて、元

気な人が多いというのがギャップで、私もよく刺激を受けています。

Q4 最後に、財務省を志望する方に対してメッセージをお願いします！

阿部:就職活動において僕が意識していたことですが、自分の直感を信じるのが一番大事だと思います。一学生が調べられる情報には限りがあると思っていて、職場の本当の魅力や裏側の事情って、結局入ってみないと分からないことが往々にしてあると思います。皆さんも今までの人生を振り返った時、何から何まで全部計算してうまくいった経験ってあまりないのではないのでしょうか。いろいろ考えて、最後は自分の直感を信じて思い切って飛び込んでみるのがいいと思います。

山下:もちろん最終的な志望先が財務省であれば、財務省の職員として大変嬉しいですが、進路選択の前段階では、たくさん悩めばいいと思います。私も受験生の時にはたくさん悩みましたが、「悩めるのは今の瞬間だけ」なので、実際に対面の説明会に参加したり自分の足で情報を稼いだりしながら、心底悩んだ上で後悔のない選択をして欲しいと思います。

田栗:ためらわずに様々な省庁の説明会に参加して、職員の方を実際に見て、いろんな話を聞いて、雰囲気を肌で感じた上で、文字で見える情報だけでなく自分の感性を信じて、最後は自分に合った志望先を見つけてください！



田栗:もちろん志望先の選択は大事ですが、もっと大事なのは、働き始めてから自分の選択は正しかったと思えるように精一杯頑張ることだと思います。働く中で思うようにいかない時もあるかもしれないですが、財務省にはサポートしてくれる温かくて優秀な人がたくさんいるので、財務省に決めた選択に後悔することはきっとないと思います。財務省でお待ちしています！

国際局 開発政策課
参事官室地域第一係
田邊 優菜
TANABE Yuna
【令和5年入省】

主計局 司法・警察係
阿部 匠
ABE Takumi
【令和4年入省】

理財局 総務課 管理係
山下 理子
YAMASHITA Riko
【令和3年入省】

主計局 文部科学第一係
田栗 雅也
TAGURI Masaya
【令和3年入省】

Q1 職場・課内の 雰囲気はどうか？

スイッチの 切り替えがはつきり

とてもあたたかい雰囲気で働きやすいです。また、締めるところは締める、緩めるところは緩める、とスイッチの切り替えがはつきりしています。業務に悩んだときには、どの先輩や上司も解決策と一緒に考えてくださるので、毎日楽しく過ごすことができています。

和気藹々とした雰囲気

上司や先輩にも質問をしやすい雰囲気があり、わからない点があればとても丁寧に教えていただけます。業務が一段落ついた際には、同じ部屋の方だけでなく、別の部屋の方とも雑談するなど、和気藹々とした雰囲気の中で業務に取り組んでいます。

Q2 仕事をする上で大切に していることはどんなことですか？

整理する

上司や先輩に相談する際には、事前に自分の考えや疑問点を整理するようにしています。そうすることで、自分の理解も深まる上に、より的確なアドバイスや解決策を得ることができます。

余裕を持つ

どんなに忙しくても、少しだけ気持ちの余裕をもって行動することを意識しています。仕事で失敗してしまっても、頭が真っ白なまま慌てて行動するのではなく、一呼吸おいて行動することで二次的なミスを防ぐように心がけています。

Q3 入省してから成長した（頑張った） と思う部分はどんなところですか？

積極的に発言

自分の意見を積極的に発言できるようになったことです。相手省庁とのやりとりで疑問に思ったことをそのまませず、なぜそうなのか自分で考えてから上司に相談する、相手省庁に投げかけるということが当たり前できるようになりました。

取り組む 優先順位をつける

スケジュール管理が適切にできるようになりました。私の係は大小様々な案件を受け持つため、取り組む優先順位をつけることが重要です。常に全体の進行を考えながらスムーズに業務に取り組んでいます。

助言に 素直に耳を傾けること

上司や先輩からの助言に素直に耳を傾けること、また、そのアドバイスを次に活かすためにメモをとることを大切にしています。失敗をしてしまうこともありますが、同じ失敗を繰り返さないよう、日々心がけています。

視野の広がり

配属当初は目の前の業務をこなすことに必死でしたが、今では長期的な見通しを持って業務に取り組むことができている。そうすると、落ち着いて仕事をこなすことができ、視野が広がります。それと同時に、今はより細かい点にも気を配ることを頑張っています。

令和5年 採用職員からの メッセージ



令和5年採用職員11名に、就職活動時のことや入省してからの1年間を振り返ってもらいました。

Q4 業務や働き方について、 入省前と入省後に ギャップはありましたか？

先進的な働き方

公務員というとデジタルに疎く、今でも紙の資料を用いて情報共有している印象がありましたが、チャットで情報をやりとりしたり外部との会議をビデオ通話で実施したり、さらにはテレワークも推奨する先進的な働き方に、非常に良い意味でギャップを感じました。

与えられる仕事

1年目の業務は先輩職員の補助や庶務がほとんどだと思っていましたが、自分で主体的に進める業務も多く、やりがいと責任の重さを感じられます。また、入省前には想像していなかった程、素早い対応が求められることもあり、日々刺激を感じています。

働くペース

休暇は想像以上に柔軟にとれると感じました。財務省は忙しいイメージが強かったですが、上司が積極的に休暇をとるように声かけをしてくださり、仕事も私生活も充実させられます。また、私は省内の部活にも参加しており、週に2回は業務を早く切り上げ、年代も部署も異なる方と共に汗を流しています。

休暇の取り方

入省前は仕事漬けの毎日を想像していましたが、夏季や年末年始には連続した休暇取得が推奨されており、普段から上司や先輩も積極的に休暇を取得したり、定時で退庁したりしているので、係員も気兼ねなくプライベートの時間を充実させることができます。

政策への関わり

国家予算の編成を通して他省庁の政策に関わることができる、という点に魅力を感じました。また、説明会を通して、職員の方々の仕事に取り組む姿勢や人柄に触れ、このような方々と一緒に働き、自分自身も成長していきたいと強く感じたため、財務省を志望しました。

Q5 財務省を志望した理由は なんですか？

職員の皆さんの人柄

職員の皆さんの人柄です。説明会で登壇された職員の方が、熱意を持って自分の業務を説明してくださったことが今でも印象に残っています。また、職員の方々が立場関係なく、信頼し合っている雰囲気を感じ、このような方々と一緒に働きたいと思ったのが、一番の決め手です。

先輩職員に憧れ、志望

私は、説明会で自らの業務に誇りと責任感を持って働く若手職員の前輩方に憧れ、財務省を志望しました。皆さんも様々な省庁の説明会に足を運んで、業務内容だけでなく、そこで働く方々の人柄も興味した上で、最後に財務省を選んでいただけたら嬉しいです。

Q6 財務省を志望する方への メッセージ

日本のため、世界のため

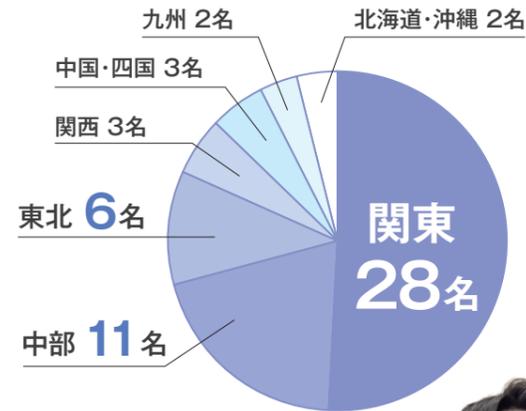
財務省は、日本のため、世界のために働くことができる場所です。業務内容も多岐にわたるため、様々な分野で日本・世界の未来について熟考することができます。実際に職員の話聞くことで皆さんの視野も一気に広がりますので、一度説明会に参加してみてください！

大きなやりがい魅力

財務省はどんな仕事も大きなやりがいを感じられることが魅力だと思います。少しでも財務省に興味をお持ちの方は、ぜひ業務説明会に参加して、財務省について深く知っていただきたいと思っています。皆さんと一緒に仕事ができる日を心待ちにしています！

Q1

出身地はどこですか？

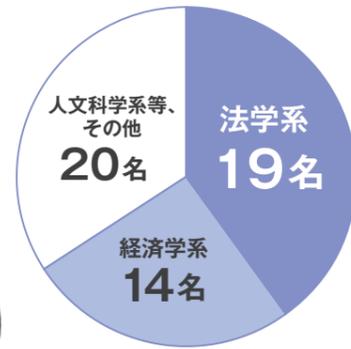


国家公務員一般職試験については、受験した地域区分(ex.行政関東甲信越)に所在する機関での採用が基本ですが、**中央省庁については、全国のどの地域区分からでも採用可能**ですので、全国各地から職員が集まっています。



Q2

大学での専攻は？



※専門学校卒は除く

法学系や経済学系が多いという印象があるかもしれませんが、**出身学部関係なく採用しています**。また、入省後は実際に業務を行う中で知識を習得し、経験を積んでいくこととなりますので、いずれの専攻分野であっても全く問題ありません。

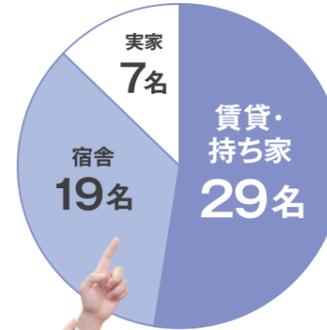


若手職員へ

若手職員の入省前の経歴・入省後の生活・働き方、から入省7年目までの職員(平成29年度～令和5年度入省)計55名にアンケートを行いました。

Q3

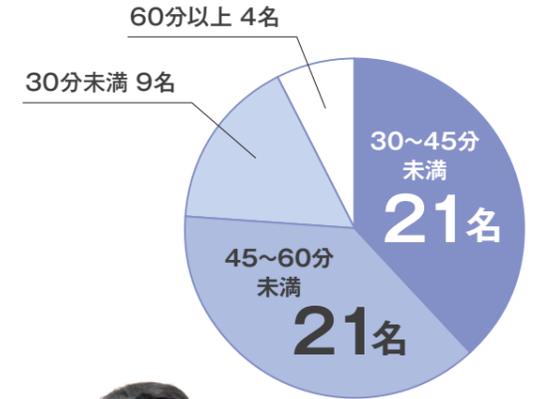
住居形態は何ですか？



民間の賃貸を契約する、あるいは、持ち家を購入する職員が最も多いですが、国家公務員宿舍を希望して住む職員もいます。また、民間の住宅を借り受け、居住し、一定額を超える家賃を支払っている職員には、最大2万8千円(令和6年3月31日時点)の住居手当が支給されます。住居を決める際には、家賃や職場からの距離などを考慮して選択しています。

Q4

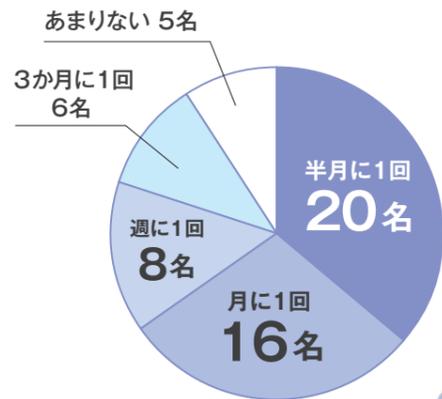
通勤時間はどのくらいですか？



財務本省まで60分未満で通勤できる場所に住んでいる職員がほとんどです。勤務地(財務本省)は、どの沿線からでも通勤が便利なので、住む場所の選択肢が多くあります。例えば、帰りに買い物しやすいエリアを選んだり、座って通勤できる始発駅があるエリアを選んだりすることもできます。

Q5

職場の同僚や同期と飲み会や食事に行く頻度は？

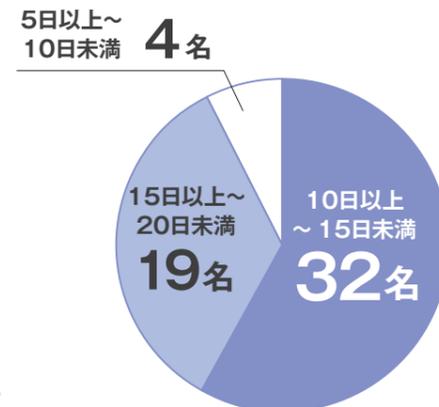


同僚や同期との飲み会や食事は、リフレッシュできる場であり、また、業務で困ったことなどを相談できる場でもあるため、大切な時間です。時には、上司と飲み会や食事をするもありますが、普段はあまり聞くことができないプライベートについても知ることができ、上司の人柄をより知ることで業務を円滑に行うことにも繋がります。



Q6

休暇取得数はどのくらいですか？

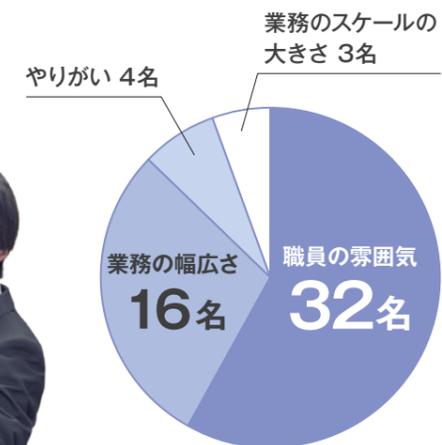


財務省は忙しいというイメージがあるかもしれませんが、**積極的な休暇の取得が推進されており、気兼ねなく休暇を取得することができます**。休暇の活用により、ワークライフバランスを充実させ、心身がリフレッシュされた状態で業務に臨めるように職場環境づくりに取り組んでいます。



Q7

最終的に財務省を選んだ決め手は？



財務省は他の省庁と比べても、業務内容が分かりにくい、業務が複雑そう、職員の雰囲気も堅い、といったイメージがあるかもしれませんが、**実際には、国家財政を通じ、多種多様な分野・業務に携わることができ、また、職員も前向きで明るい職員ばかりです**。ぜひ一度職員と話してみてください！

